

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2020年8月）議事録

日時：2020年8月28日（金）午後5時30分～7時30分

場所：ZoomによるWeb会議

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸、西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事、赤間高雄、井福裕俊、

太田 真、大野 誠、栗原 敏、後藤勝正、

下光輝一、須田和裕、須永美歌子、竹森 重、

田中喜代次、中里浩一、永富良一、成田和穂、

浜岡隆文、前田清司、宮内 卓、宮川俊平、

和気秀文各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

徳田修司第75回大会長、

加藤 公第76回大会長

欠席者：小山勝弘、新開省二各理事、小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 令和2年度庶務報告に関する件について

（武政総務委員長）

資料②-1、②-2に基づき、令和2年度庶務報告がなされた。

2020年7月31日現在、会員総数は3,943名（昨年度から190名減少）、評議員は529名（内医師77名、非医師452名）、賛助会員6団体、新入会員180名（昨年度から143名減少）、退会者360名（内自然退会177名）であることが報告された。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上の会費未納者については、自然退会とすることが承認された。自然退会者リストに載っている会員で、声掛けできる会員には、会費納入の催促をして欲しい旨、依頼された。

3. 令和2年度会計報告に関する件について

（宮川財務委員長）

資料③に基づき、令和2年度決算について、報告された。

収入の部：会費収入は37,210,760円（内正会員35,880,000円）であり、収入合計は87,339,887円となった。

支出の部：第74回大会開催費が予算額より12,582,680円減少したこと、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国内外交流費、スポーツ医学研修会の中止による運営費の支出減少などにより、支出合計額は80,113,398円となった。その結果、当年度収支差額は7,226,489円の黒字決算の見込みとなった。

第74回大会の会計確認が遅れたため、公認会計士による本決算の監査も遅れ、現在監事による監査が行われている旨、報告された。

4. 令和2年度事業報告に関する件について

（鈴木理事長）

資料④に基づき、令和2年度事業の概要が報告され、特に重要な案件については各種委員会による「報告事項」の項で報告してもらうことにした。

5. 令和3年度会計報告（予算）に関する件について

（宮川財務委員長）

資料⑤に基づき、令和3年度予算案について報告された。

収入の部：現在の会員数および会費納入率実績（90%）に基づいて試算し、正会員会費34,821,000円、会費収入全体では37,091,000円として計上した。収入額合計を59,630,500円として計上した。第75回年次学術大会（於鹿児島）は新型コロナウイルス感染拡大防止の見地からWeb形式に変更したことにより大会開催収入予算（令和2年度予算案）より著しく減少したこと、スポーツ医学研修会中止による研修会収入の減少およびデサントからの協賛金（国際交流基金）が1,000,000円から500,000円減額されたことが、収入予算額合計が前年に比較し約60%に減少した主な理由である。

支出の部：第75回年次学術大会がWeb形式に変更したことやスポーツ医学研修会を中止したことにより事業費支出が前年度予算額の56%に減少したことで、支出合計予算額が59,744,000円となった。当年度収支差額は-113,500円となる見込みである。

また、鈴木理事長より、国際交流基金収入としている、公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団からの助成金は令和3年度からは50万円に減額されたことが追加報告された。また、学会本部と各地方会の収入・支出等の金額が合算表示され判り難かったため、学会本部と地方会の収入・収支欄を明確に区分し、当該年度収入・支出額は学会本部と地方会の合算額として表示し、備考欄に説明を加えた旨、追加報告された。

6. 評議員推薦に関する件

（大野評議員選考委員会委員長）

資料⑥に基づき、評議員選考委員会において候補者8名に対しての審査を行い、全員が評議員選考条件を満たした旨の報告があり、2020年度評議員候補者として8名を評議員に推薦することが承認された。

7. 中富健康科学振興賞被推薦者選考について

（武政総務委員長）

資料⑦-1、⑦-2に基づき、公益財団法人中富健康科学振興財団より中富健康科学振興賞の推薦依頼が届いた旨、報告があった。本賞の選考に関して、2013年9月の理事会に於いて制定された中富健康科学振興賞の「候補者推薦に関する申し合わせ事項」（資料⑦

-2)についても説明された。それらの資料(⑦-1, ⑦-2)の中には具体的な推薦条件が無かったため、総務委員会において、4期12年間の就任歴を持つ、理事長、副理事長、常務理事、理事、評議員会長、各種委員会委員長経験歴、それぞれに点数を付加し、それらの合計点を算出して候補者を選出したことが説明された。その結果、総得点上位3名の被推薦候補者を選出されたことが報告された。次いで、今日出席されている理事による無記名投票により1名の被推薦候補者を選出することになった。そのため、3名の被推薦候補者のうち、今日の理事会に出席している候補者2名には速やかに退席して頂いた。

この間、宮川理事より、「選考過程や評価基準をこの理事会で、考察する必要はないのか。」という質問がなされた。宮川理事の質問に対して、武政総務委員長から、次のような回答がなされた。「本来ならば、選考過程や評価基準については、総務委員会で原案作成後、理事会でそれを審議して頂き、承認を得た上で評価基準を確定し、それを基にして総務委員会で討議し、報告するのが手順である。しかし、本件の依頼が7月に来て、8月28日の理事会で1名の被推薦候補者を決定し、9月末に推薦書を提出しなければならなかったため、今回に限っては総務委員会で点数化したものを算出し、上位3名を被推薦候補者とした。」

これに対して、宮川理事より、次のような意見が出された。「どのような評価基準であるかを役員全員からコンセンサスが得られていないと、今後推薦の問題になることが懸念される。推薦基準は明確にするべきである。」

宮川理事の意見に対して武政総務委員長から、次のような回答がなされた。「今回の推薦後、おそらく2~3年に一度、本件の推薦依頼が来るので、宮川理事がおっしゃるように理事会のコンセンサスを得るために、明確な選考基準を作成し、総務委員会で検討することが必要である。今回は急を要していたため、総務委員会で検討した。理事長、副理事長、常務理事、理事、評議員会長、各種委員会委員長、副委員長、それぞれに点数を付加した。点数化のプロセスを確認頂くため、その表を提示した。尚、総務委員長、編集委員長、学術委員長は、他委員会よりも、業務に携わる時間が長いことから、点数を増やした。」

この説明に対して、宮川理事より、次のような質問がなされた。「長年学会等にご尽力いただいた方々と思うが、例えば、ご所属先での健康科学の発展に功績のあった研究者の業績の評価を考慮するべきではないか。」宮川理事の質問に対して武政総務委員長から、次のような回答がなされた。「中富健康科学振興賞では、それが重要ではあるが、多くの候補者の研究業績を事前段階で集めておくことと、選考の段階で考慮することは、時間的に困難であった。従って、資料⑦-2に示された2013年9月に理事会で承認された「中富健康科学振興賞候補者推薦に関する申し合わせ」にある通り、「日本体力医学会の発展、啓発および普及に極めて貢献度の高い会員および名誉会員から候補者を選定する」という申し合わせに従い、役職の執行状態を考え、貢献を公平かつ正確に点数化することとした。

本来であれば、最終的なプロセスで上位何名かを絞り、それぞれの候補者から健康科学に関係する研究者の研究業績や、社会貢献等を収集し、それらを検討しながら選考することが正当なプロセスだと考えられる。今回はそのプロセス遂行が不可能なため、3名の推薦候補者に対して、理事の方々のご承知の推薦候補者それぞれの研究業績を加味し、今日の投票に備えていただきたい。」

この説明に対して、宮川理事より、次のような質問がなされた。「その3名の資料はないのか。」宮川理事の質問に対して、武政総務委員長から、次のような回答がなされた。「正会員、名誉会員の中から理事を4期12年間以上務めた人物を抽出し、業績、功績を点数化した。点数計算に関しては、総務委員会全員で検算している。その結果、今回、総務委員会では上位3位までを候補者として推薦し、最終候補者1人の決定は本理事会で無記名投票によって決定したい。尚、総務委員会で点数化できなかった学会への貢献として、下光先生は「第71回岩手大会における特別講演」、勝村先生は「第68回東京大会における副会長」、碓井先生は長くスポーツ医学研修会の講師を務めたことである。」が挙げられる。

本賞選考に関して、田中理事より、次のような意見が出された。「健康科学の発展に顕著な功績があった研究者に対する顕彰となっているので、役員としての貢献は大きなポイントになるかと思うが、研究業績も重要である。今回の推薦はともかく、今後はこのことを考慮していくべきである。」

田中理事の質問に対して武政総務委員長から、次のような回答がなされた。「今回については、応募までの時間が無く、集めることが不可能であった。今後は、健康科学に関わる研究業績・社会貢献等も候補者選考の要素となるように総務委員会で選考プロセスの原案を作り、理事会で諮るようにする予定である。」

出席理事のみに投票権があることが承認され、無記名投票がなされた。開票の結果、下光輝一理事が推薦されることになった。

8. 編集委員会 Editorial Managerでの「ORCID」ならびに「Publons」との連携について(後藤編集委員長)

資料に基づき、学会誌JPFISMの投稿に関する査読者についてORCIDならびにPublonsとの連携についての提案がなされた。

● ORCID (Open Research and Contributor Identifier) (非営利団体ORCID.orgが管理)
研究者と業績等を永続的にリンクさせるための研究者統一ID

2020.2.25 Editorial Managerで連携開始。

● Publons (Clarivate Analytics社)
研究者と査読実績をリンクされるためのID
Web of Science Core Collectionの最新被引用数を表示

ORCIDと同期可能

本サービスの利用には料金が発生

① 1ジャーナル利用の場合

Publons Reviewer Recognition -

1,670 USD (税抜き) ※1年当たり

② 2 ジャーナル利用の場合

Publons Reviewer Recognition -

2,230 USD (税抜き) ※1年当たり

これに対して、須田理事より、次のような質問がなされた。「人によって考え方は違うが、この料金は高額に感じる。尚、査読の履歴が残ることで日本の中で業績として評価している大学はどれくらいあるか。」

須田理事の質問に対して、後藤編集委員長から、次のような回答がなされた。「日本の大学では確認はできていない。外国のみである。」これに対して、須田理事より、次のような意見が出された。「料金が安価であれば問題ないと思う。」

須田理事の質問に対して、後藤編集委員長から、次のような回答がなされた。「料金も含めて検討いただきたい。」

これに関連して、永富理事より、次のような意見が出された。「研究者のメトリックスは多彩になってきており、いずれ日本でのメリットになっていくと思う。自身の査読履歴を登録するかは査読者に選択権があるので、金額については様々な意見があると思う。可能であれば賛成である。」

これに対して、鈴木理事長より、次のような質問がなされた。

「日本の大学や研究機関で、査読をしたことがその人の業績になっておらず、これに対して、20万円近くを毎年払う価値があるのかという懸念がある。但し、査読者は多くの時間を費やして査読しているの、その労に報いることには賛成である。以前、査読の謝礼として2,000円の図書券を配っていたが、後輩の研究者を指導することに対して、代償を支払うことは如何なものか、との意見により廃止された。毎年、編集委員会で査読を何件したか、などの集計を行い、図書券のような副賞を添えて、学会年次大会で感謝状(表彰状)を差し上げる方が業績になると思うが、どうか?」

鈴木理事長の質問に対して、後藤編集委員長から、次のような回答がなされた。「半分は同意見であるが、査読者を学会以外に求めている部分が特に英文誌は多いと考えられる。これからJPFISMが国際的に育っていき、多くの人に早く知ってもらうために、あえて外の仕組みを取り入れることが提案である。」

これに対して、鈴木理事長より、次のような質問がなされた。「今JPFISMを外国の人に査読をしてもらっている件数はどのくらいあるか。」鈴木理事長の質問に対して、後藤編集委員長から、次のような回答がなされた。「まだ、集計はできていない。」

これに関連して、鈴木理事長より、次のような意見が出された。「今ここで、この連携の提案を決定せず、継続審議ということでは如何か?」

これに対して、武政常務理事より、次のような意見が出された。「運動生理学会は査読者には2,000円分の図書カードが送られている。しかし、日本の大学では査読の評価は、少なくとも所属大学では、評価等が無いのが現状である。査読者には図書カードを贈ることや、査読者に直接的に1査読当たりのインセンティブがあることはうれしいことであるので、理事の方々の

承認があれば、この件も含めて、継続審議していただきたい。」

これに関連して、井上監事より、次のような意見が出された。「分野によって状況は異なるかもしれないが、私の周りでは「ORCID」、「Publons」との連携はごく当然のことで、これらに連携していないジャーナルは、今一つなジャーナルという印象を持たれる時代ではないかと危惧する。20万程度であれば導入してよいのではないかとという印象である。」

鈴木理事長より、体力医学会発行の欧文誌JPFISMはPubMedに掲載されておらず、インパクトファクターも付いていない現状で、外国の研究者がJPFISMへ投稿された論文の査読に応じてくれるか否かが懸念される。まず、PubMed掲載やJPFISMに掲載された論文の引用件数の増加等による認知度上昇に努めて貰い、査読者への労に報いるために新たに表彰制度を設ける案が提案され、今回編集委員会から提案された「Editorial Managerでの「ORCID」ならびに「Publons」との連携について」は継続審議とすることが提案された。

【報告事項】

1. 日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について(碓井称号委員長)

資料⑨に基づき、日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について報告された。

日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者22名の氏名リストが掲示され、承認された(内、終身称号者は12名)。

2. 各種委員会報告

・総務委員会(武政総務委員長)

令和2年度事業報告資料④に基づき、中富健康科学振興賞候補者推薦に関する情報収集および候補者の検討をしたことが報告された。第77回大会(栃木)の大会長候補者の選考については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から交渉を控えている旨、報告された。

・編集委員会(後藤編集委員長)

資料④に基づき、以下の内容が報告された。

◎学会誌出版(学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開)

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFISM)」

Vol. 8のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 9のNo. 1, No. 2, No. 3

「体力科学」

Vol. 68のNo. 4, No. 5, No. 6; Vol. 69のNo. 1, No. 2, No. 3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施

◎JPFISM掲載論文リストのメール配信

◎投稿規定追記(2019.11.20)

「JPFISM」Author Contributionsを追記

「体力科学」著者の資格と著者貢献を追記

◎JPFISMや体力科学に掲載された論文のキーワード検索について(J-STAGE検索方法)の掲載

(2019/10/11)

- ◎ジャーナルの活性化対策の検討「特集号」の掲載・企画
注目されている hot topic に焦点を当てた「特集号」を掲載

「JPFMS」 Vol. 8, No. 5

第2回特集：Exercise and blood pressure: Towards better management of hypertension by exercise habituation
6編掲載

「体力科学」 Vol. 68, No. 5

第3回特集：介護予防を考える 6編掲載

- ◎JPFMS 海外 Editor 6名の追加 (2019年11月)

- ◎編集委員2名の追加 (2020年5月)

- ◎「Study Protocol 投稿受付一時停止」(2020.7.17)
「Study Protocol」投稿規程検討ワーキンググループによる投稿規程検討

- ◎国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 2020年度ジャーナルコンサルティングに採択 (DOAJ への収録支援)

7/31 ジャーナルコンサルティング「グループセミナー」に参加

- ◎Editorial Managerでの「ORCID」ならびに「Publons」との連携

- ORCID

(2020.2.25 Editorial Manager で連携開始)

- Publons (Clarivate Analytics 社) 契約検討中 (有料)

- ◎「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況資料⑩<投稿状況>

(2019年9月1日～2020年8月4日)

「JPFMS」誌：新規投稿59編 (内海外7編)

※前年同期間：新規投稿49編 (内海外5編)

8/4現在、審査中14編 (採択25編 (内海外1編)、不採択15編、原稿取下げ5編)

※受付不可8編 (投稿規定に沿わない等で原稿返却、国内1編、海外7編)

「体力科学」誌：新規投稿53編 (依頼総説1編、依頼教育講座4編、特集号3編含む)

※前年同期間：新規投稿58編 (依頼総説1編、依頼教育講座2編、特集号6編含む)

8/4現在、審査中14編 (採択18編、不採択21編)
<発行予定>

「JPFMS」誌

○Vol. 9, No. 5 (2020年9月25日発行)

掲載論文6編予定

○Vol. 9, No. 6 (2020年11月25日発行)

学会大会抄録集

「体力科学」誌

○Vol. 69, No. 5 (2020年10月1日発行)

掲載論文6編予定

○Vol. 69, No. 6 (2020年12月1日発行)

特集号4編予定

- ・学術委員会 (碓井学術委員長)

学術刊行物「医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス」の作成、大塚スポーツ医科学賞

の詳細、ミズノスポーツ振興財団スポーツ学等研究助成金についての詳細、日本医学会における「未来への提言」及び質問事項の提出、第31回日本医学会総会学術委員会学術プログラム構成に関するアンケートの提出、第58回日本リハビリテーション医学会学術集会合同シンポジウムの企画についての決定の報告がなされた。

- ・スポーツ医学研修会委員会

(中里スポーツ医学研修会委員長)

令和2年度事業報告資料④に基づき、令和2年度の第31回スポーツ医学研修会が中止となったことが報告された。

- ・プロジェクト研究委員会

(須田プロジェクト研究委員長)

プロジェクト研究委員会が令和2年度で終了したことが報告された。

- ・学会賞選考委員会 (前田学会賞選考委員長)

第33回日本体力医学会学会賞候補の選考と、前回の理事会で審議し決定されたことが報告された。

- ・ガイドライン検討委員会

(宮内卓ガイドライン検討委員会委員長)

令和2年度事業報告資料④に基づき、以下の内容が報告された。

「生活習慣病の蔓延」と「少子高齢化の進行」が大きな社会問題となっているわが国における、「健康寿命の延伸」を目指した活動などを視野に入れたガイドラインの作成を、他の学術団体との協力も含めて進めている。また、2021年夏に開催予定の東京オリンピックを視野に入れた、競技スポーツにおける安全対策、特に熱中症対策やアンチドーピング等についてのガイドライン作成を、他の学術団体との協力も含めて進めている。

- ・渉外委員会 (永富渉外委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

1. 委員長：永富良一

副委員長：宮下政司、和気秀文

委員：荻田 太、小熊祐子、浜岡隆文、藤田 聡、山内秀樹、秋本崇之、丸藤祐子、奥津光晴、関根紀子、橋本健志、門間陽樹、鎌田真光、福 典之

2. 国際交流事業

(ア) ECSS-JSPFSM Exchange Symposium 中止

①2020-Seville 2020.10.28-30 (COVID19のため延期された新日程)

ECSS-JSPFSM Exchange Symposium “Muscle Relaxation in Sports”

シンポジスト：加藤考基 (南山大学)、大高千明 (奈良女子大学)、Vogt, Tobias (ケルン体育大学：座長)

②ECSS 2020.10.28-30 オンライン開催 交流シンポジウム中止

③ECSS 2021 Seville, ECSS2022 Glasgow に予定変更

1. 2021 Glasgow 公募申請未定 (国内選考済み)

(イ) 第75回日本体力医学会大会 (鹿児島)

2020.9.24-26における国際交流事業：ECSS 2019 Young Investigators Award Winnersの招聘
来年度に繰り越し予定

(ウ) ECSS 2020 Virtual 2020.10.28-30 Young Investigators Award Winnersの日本体力医学会大会への招聘 検討中

(エ) 国際学術交流奨励賞

(オ) 2020横浜スポーツ学術会議（2020.9.8-12 Web会議）企画
(http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html)
Web

日本体力医学会提案企画 ライブ開催

9月11日

16:00-17:30

Sports under the COVID19 pandemic (K16)
Tim MEYER, Stephane BERMON, Ryoichi NAGATOMI

17:30-19:00 Technology and sports (Q24)
Hiroaki HOBARA, Stephane BERMON, Tetsuo NISHIYAMA

(カ) 他の国際学会との連携

(下記が予定されているが、いずれも延期・中止)

①AFSM (アジアスポーツ医学会), FIMS (国際スポーツ医学会)

②ACSS (Asian College of Sports Science 仮称) 準備委員会設立時参加国 (予定): China, Singapore, Malaysia, Hong Kong, Chinese Taipei, Thailand, Vietnam and Japan

③韓国運動生理学会 (The Korean Society of Exercise Physiology)

3. 国内関連学術団体との交流・連携

(ア) 脳心血管病予防に関する包括的管理合同会議

(イ) 国内学会との連携

①日本生理学会大会

②サルコペニアフレイル学会, 日本臨床運動療法学会など

・倫理委員会 (成田倫理委員長)

資料④に基づき, 大会の演題応募における倫理的手続きの検討が報告された。

・広報委員会 (須永広報委員長)

令和2年度事業報告資料④に基づき, 以下の内容

が報告された。

1) 学会ホームページの管理・運営

2) 学会ホームページのコンテンツ (刊行物紹介) の追加

・男女共同参画推進委員会

(須永男女共同参画推進委員長)

令和2年度事業報告資料④に基づき, 以下の内容が報告された。

1) 男女共同参画学協会連絡会 第18期 運営委員会への出席

2) ワークショップ開催に関する検討

・全国地方会実行委員会

(竹森全国地方会実行委員会委員長)

令和2年度事業報告資料に基づき, 以下の内容が報告された。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2月以来各地方会大会が中止となっているが, 求めに応じて助言を行った。

3. 第75回 (鹿児島) 大会の進捗状況 (徳田大会長)

配布資料に基づき, 以下の状況であることが報告された。

会 期: 2020年9月24日(木)~26日(土)

会 場: WEB開催

テーマ: チェストいけ! 日本体力医学会

- 健康長寿を支える体力医学の未来 -

(1) 現時点 (8/25) の参加予定数 390名

(2) 特別講演 (1)・教育講演 (1) は, 誌上発表
大会長講演は, Web場での発表

(3) 現時点 (8/25) での一般発表 (ポスター) 450題

(4) 協賛企業 (広告) 13社

(5) プログラム・予稿集 現時点: 3/31校了予定

また, 各種委員会, 研究会の開催日程については, 大会の運営事務局に連絡するよう, 周知がなされた。

4. 第76回 (三重) 大会の進捗状況 (加藤大会長)

資料①に基づき, 大会の準備状況等について報告された。

会 期: 2021年9月17日(金)~19日(日)

会 場: 三重県総合文化センター